

エルサレム神殿（エルサレムしんでん）は、古代エルサレムに存在したユダヤ教の礼拝の中心地。唯一の神ヤハウエの聖所。アロンの家系の祭司とレビ族出身の非祭司階級が祭祀にあたりました。

歴史的には、

○紀元前 10 世紀にソロモン王が建設した神殿（ソロモン神殿）

○バビロン捕囚からの解放後の紀元前 515 年にゼルバベルの指揮でほぼ同じ場所に再建された神殿（第二神殿）

○紀元前 20 年にヘロデ大王によって完全改築に近い形で大拡張された神殿（ヘロデ神殿）

の 3 つがあります。しかし、紀元 70 年、ユダヤ戦争において、ローマ帝国軍とその同盟軍であったハスモン王朝のヘロデ大王の曾孫にあたるアグリッパ 2 世により破壊されました。

現在「嘆きの壁」と呼ばれる部分は、このヘロデ神殿を取り巻いていた外壁の西側の部分で、その基礎部分は、ほぼすべて残されています。

参考文献 [Wikipedia:「エルサレム神殿」](#)最終更新 2015 年 8 月 27 日（木）12:15